高石市男女平等に関する意識調査報告書

【概要版】

アンケートでわかったこと

- 各分野の男女の地位の平等感は、「社会通念・慣習・しきたり」や「政治・経済界」など多くの分野で『男性優遇』と感じる人が多くなっています。
- 「男は仕事、女は家庭」という考え方には女性の 61.2%、男性の 50.4%が『同感しない』と回答しています。
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」のバランスがとれた生活を希望する人は多いのに対して、現実に仕事と家庭生活の両立ができている人は少ないのが実態です。
- 災害時の対応では、男女別のトイレ・物干し場・更衣室などの設置、性別に配慮した備蓄品の備え・配布時の配慮、避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見の反映などが求められています。
- 暴力に関する認識については、身体的暴力、性的暴力、経済的暴力に比べて、精神的暴力、社会的暴力では「どんな場合でも暴力にあたると思う」の割合がさほど高くありません。
- 配偶者から精神的な暴力を受けたことがある人は女性 23.1%・男性 15.3%、身体的な暴力を受けたことがある人は女性 19.4%・男性 11.8%となっています。また、性的な暴力を受けたことがある女性は 11.7%となっています。

調査の目的

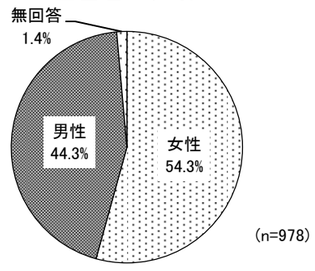
「第2次高石市男女共同参画計画」並びに「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」に基づく「市町村基本計画」と「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく「市町村推進計画」の策定にあたり、市民の男女平等意識や現状ニーズ等を把握し、計画策定の基礎資料とするとともに、今後の男女共同参画施策を効果的に実施するために活用することを目的として、今回の調査を実施しました。

調査の概要

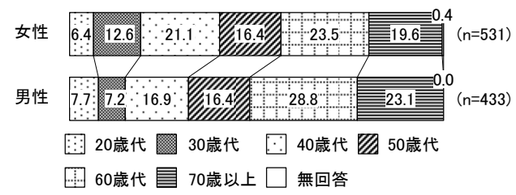
○調査対象	20 歳以上の市民 2,000 人(男女各 1,000 人)	
○標本抽出方法	住民基本台帳から無作為抽出	
○調査方法	郵送による調査票発送と回収	
○調査期間	平成 28 年 7 月 1 日～7 月 20 日	
○調査内容	・男女平等について	・子育てや暮らしについて
	・生き方や仕事について	・女性の人権と男女間の暴力について
	・社会的活動について	・男女共同参画社会について
○回収数	978 票(48.9%)	

属性

回答者の性別



回答者の年齢



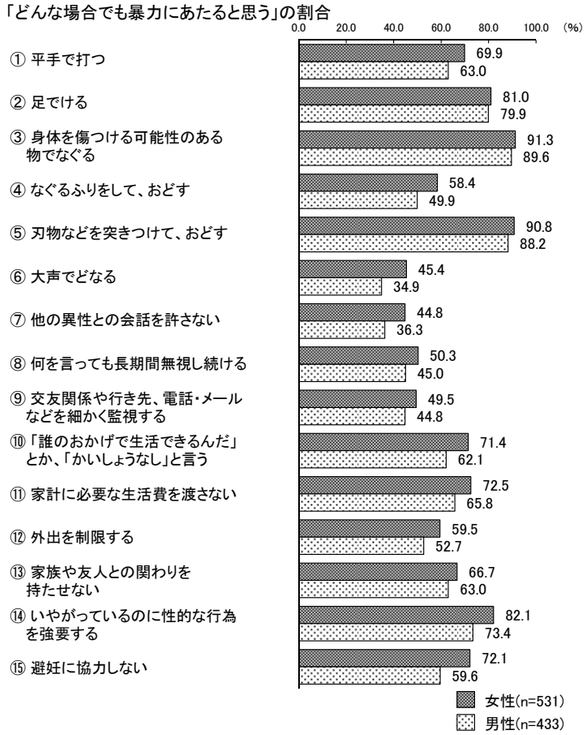
暴力だと思う事柄

問　あなたは、次のようなことが配偶者・パートナーの間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。あなたのお考えに近いものを選んでください。（各項目に○は１つ）

「どんな場合でも暴力にあたると思う」が高い項目は、順に「③　身体を傷つける可能性のある物でなぐる」、「⑤　刃物などを突きつけて、おどす」、「②　足でける」、「⑭　いやがっているのに性的な行為を強要する」などとなっています。

対して、「⑥　大声でどなる」、「⑦　他の異性との会話を許さない」、「⑨　交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する」では「どんな場合でも暴力にあたると思う」が男女ともに 5 割未満となっています。

※選択肢は「どんな場合でも暴力にあたると思う」「暴力にあたる場合もそうでない場合もあると思う」「暴力にあたるとは思わない」



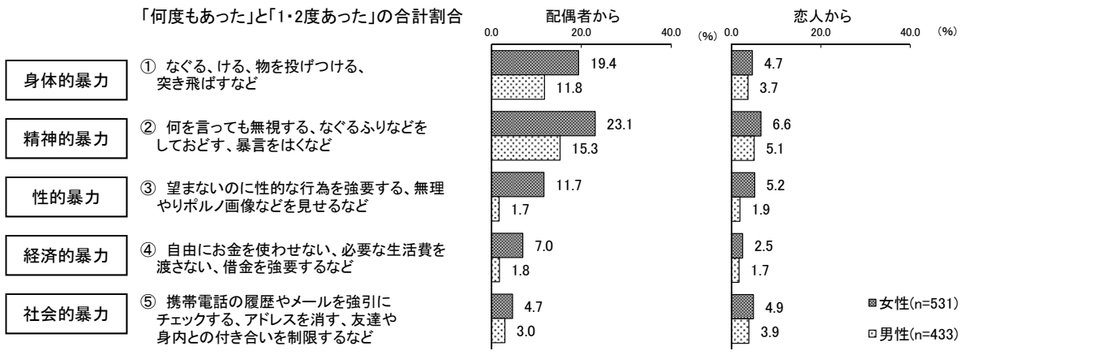
女性に多い配偶者や恋人からの暴力（DV）を受けた経験

問　あなたはこれまでに、配偶者（事実婚や別居中を含む）や恋人から、次のようなことをされたことがありますか。（各項目に○は１つ）

配偶者から受けたことがある行為は、精神的暴力は女性 23.1%・男性 15.3%、身体的暴力は女性 19.4%・男性 11.8%が経験しており、いずれも女性の方が男性よりも割合が高くなっています。また、性的暴力は女性の 11.7%が経験しています。

恋人から受けたことがある行為は、経済的暴力以外の項目に女性の約 5%が『あった』と回答しています。精神的暴力については、男性でも 5.1%が『あった』と回答しています。

※選択肢は「何度もあった」「1・2 度あった」「まったくない」

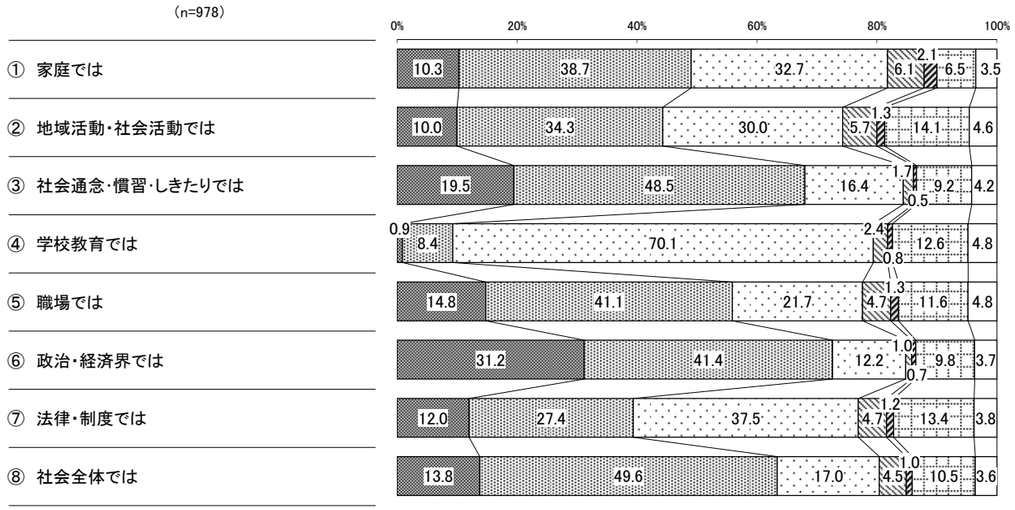


高石市男女平等に関する意識調査報告書【概要版】　発行年月　2017 年(平成 29 年)3 月
編集・発行　高石市　総務部　人権推進課　〒592-8585　大阪府高石市加茂 4 丁目 1 番 1 号　電話　072-265-1001(代表)

多くの分野で男性優遇感が根強い

問　現在の社会において、男女はどの程度平等であると思いますか。（分野ごとに○は１つ）

社会の各分野の男女の地位の平等感についてたずねたところ、多くの分野では『男性優遇』（「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」の合計）の割合が高くなっており、特に「社会通念・慣習・しきたり」や「政治・経済界」の分野では約 7 割の人が男性の方が優遇されていると考えています。「学校教育」の分野では平等であると感じる人の割合が高くなっています。

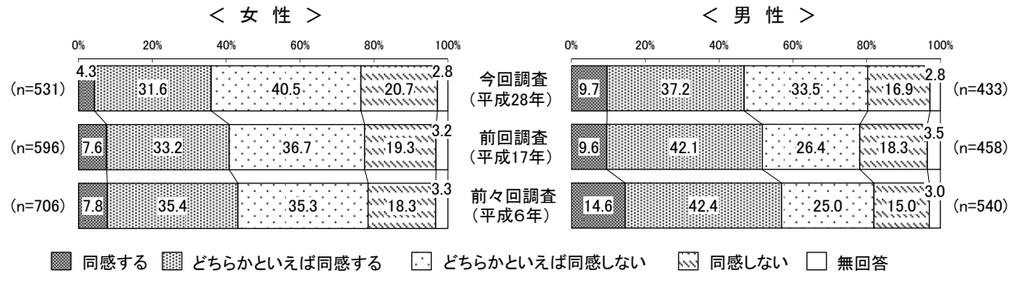


性別役割分担意識の変化

問　「男は仕事、女は家庭」と性によって役割を決める考え方を、どう思いますか。（○は１つ）

性別役割分担意識（「男は仕事、女は家庭」という考え方）については、「同感しない」と「どちらかといえば同感しない」を合計した『同感しない』が女性 61.2%・男性 50.4%で、男女とも半数を超えています。

過去の調査と比べると、少しずつ『同感しない』が増加しており、性別役割分担意識の変化がみられます。

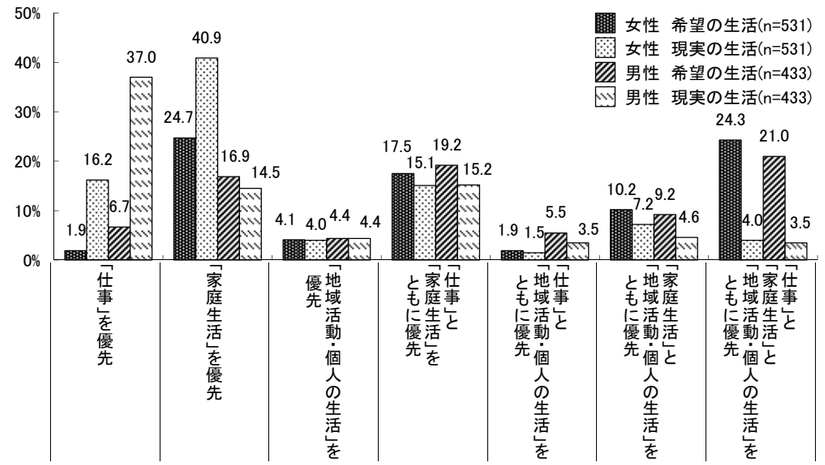


生活の中で優先することは希望と現実にギャップがある

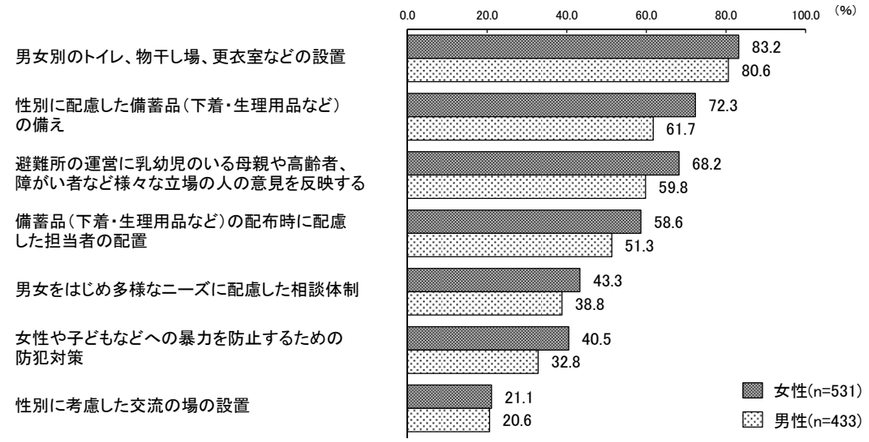
問　あなたは、生活の中で「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の何を優先させたいですか。希望と現実それぞれをお答えください。（それぞれ○は１つ）

希望する生活は、「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（女性 24.3%・男性 21.0%）、「『家庭生活』を優先」（女性 24.7%・男性 16.9%）、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（女性 17.5%・男性 19.2%）の割合が高くなっています。

一方、現実の生活は、「『家庭生活』を優先」が女性で 40.9%、「『仕事』を優先」が男性で 37.0%となっています。希望する生活として最も割合の高い「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」は現実の生活では女性 4.0%・男性 3.5%にとどまります。



避難所で快適に過ごすためには様々な配慮が必要

問　災害時の避難所において、みんなが快適に過ごすために取り組むとよいと思うことは、どんなことですか。（○はいくつでも）

災害時の避難所において快適に過ごすための取組については、「男女別のトイレ、物干し場、更衣室などの設置」が女性 83.2%・男性 80.6%で最も高く、次いで「性別に配慮した備蓄品（下着・生理用品など）の備え」、「避難所の運営に乳幼児のいる母親や高齢者、障がい者など様々な立場の人の意見を反映する」、「備蓄品（下着・生理用品など）の配布時に配慮した担当者の配置」などの順となっています。